

重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実 【学習】【各教科】	b 自主的な学習態度の育成 【学習】【各学年】
重点課題	1 組織的な授業研究の取り組みと成績不振者対策の徹底	2 自主的な学習計画の作成と適切な家庭学習時間の確保
現状	<ul style="list-style-type: none"> 各教科において年1回の研究授業、校内において年2回の公開授業を実施している。 各学年の学期末における赤点取得者数が二桁にのぼっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に1、2年生の家庭における学習時間が十分に確保されていない。 シラバスを作成し、年度当初全生徒に配布しているが、どの程度活用されているか疑わしい。
達成目標 達成率	<ul style="list-style-type: none"> 年1回市内中学校に向けての公開授業及び意見交換会を実施し、指導法の改善に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画作成におけるシラバスの有効活用率60%以上。
A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	A	B
	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の1・2学期末における複数教科赤点取得生徒5名以内。 	<ul style="list-style-type: none"> 平日の家庭学習時間「学年+2」、休日「学年+5」の達成率60%以上。
		C
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 秋の公開授業に中学校関係者を招き、その後の意見交換会等の結果を基によりわかりやすい授業の研究に取り組む。 土曜講習、夏期講習の効果的な実施内容及び方法を検討し、生徒の学力向上につなげる。 複数教科において赤点を取得した生徒に対しては、保護者に連絡の上、学習指導部長より注意を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> シラバスを配布することの意味を明確にし、それを基に生徒一人ひとりがしっかりと家庭学習計画を立てられるよう指導する。 特に部活動に所属している生徒に対し、担任面談等を通して、休日における効率的な時間の利用方法等について指導する。 各教科・学年において、週末及び長期休業中の適切な質と量の課題を検討する。
評価	<p>栃高評価：生徒54%(60)保護者87%(75) 栃高評価：生徒70%(71)保護者84%(57)</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月に中学校に向けての第1回の公開授業を行い、参加者は5名と少数であったが、その後の意見交換会において有意義な情報交換ができた。 学習意欲が低く、成果が上がらない生徒も見られたが、概ね目標は達成できた。 	<p>栃高評価：生徒81%(76)保護者94%(95) 栃高評価：生徒71%(71)保護者95%(91)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習実態調査：「シラバスの有効活用率」は学年が進むに従って低下している。 学習実態調査：各学年において平日「学年+2」の家庭学習が達成できた生徒の割合は、目標に遠く及ばない状況であった。
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 概ね達成ということで良好な結果だと思ふ。 成績不振者に関しては、やる気を無くさせないようなきめ細かい指導を引き続きお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生は部活動の中心なので、それまでの学習習慣を変えて学習時間を増やすのは難しい。1年次にしっかりと学習習慣を付けるように指導していくことが大切。 シラバスに関しては、実際の授業進度とずれた時に、生徒に周知できるようにご配慮願いたい。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 各教科内の優れた教授技術が、同じ科のすべての教諭によって共有されるようにする。 学習意欲の低い生徒の動機付けを、どのように組織的かつ機能的に行うことができるかを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の学力に合った家庭学習計画を立てさせるよう、指導法を工夫する。 特に、部活動に参加している生徒に、どのようにして能率的な学習習慣を身に付けさせるかについて指導法を工夫する。

重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現		【進路】【各教科】【各学年】	
重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践		4 模試データ分析と効果的な活用と適切な進路情報の提供	
現状	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画を進路指導部で作成し、各学年担当を中心に実施している。また、進路講演会、キャリア教育講演会や、大学・学部・学科説明会、出張講義を実施している。 2年次より3年生の進路シラバスを提示するなど、先を見た進路指導を実施している。 		<ul style="list-style-type: none"> 校内模試データによる志望校判定基準と、外部模試のデータ分析・活用に改善の余地がある。 進路学習室の環境は、過去問題集等の資料は充実しつつあるが、まだ「興味・関心別おすすめ図書」の充実度は不十分であり、利用環境は快適とはいえない。また、学問の広がりや深まりについての情報提供が十分とは言えない。 校内実力テスト、外部模試ともに報告に偏りがちで、分析に十分な時間がかけられず、「個人に生きる」分析には至っていない。 	
達成目標 達成率	<ul style="list-style-type: none"> 一、二年次の進路学習をより充実させ、三年次の進路選択に生かしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内模試データに基づいて作成する情報の精度を上げるとともに、全ての模試について学年内での分析を充実させ、結果を学年内で共有する。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の指導資料をデータ化し、体系を完成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報の充実と、その利用環境の改善を図る。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価 保護者・生徒ともに80%以上満足。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価 保護者・生徒ともに80%以上満足。 	A
具体的な取 り組み	<ul style="list-style-type: none"> 一年次からの進路学習を充実させるため、その出発点として、働くことや探求することの意義を実感させるべく「キャリア講演会」や「出張講義」を実施する。 LHRの計画を三年間を見通して充実させると共に、その各学年のデータや長期休業前指導などの使用資料を電子データとして整理し、三年間を見通した進路学習の体系を確立する。 LHRでの進路指導や進路講演会・学年集会をきっかけに、常に進路意識を持たせるためのアプローチを行い、早期からの進路意識の醸成を図るとともに、3年生については進路指導委員会を軸とした指導を充実させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路実現に向け、データ分析を行い、受験校の校内判定による生徒の合格可能性をより正確に測れるように改善する。 校内模試・実力テストや外部模試についての各教科の分析や対策を強化し、生徒個人が高い意識が持てるような模試分析を行うとともに、そのことを通じて教科の活性化を促す。 「興味・関心別おすすめ図書」22年度版を作成し、全書籍を購入の上、図書室だけでなく進路学習室でも利用できる環境を整える。 進路指導室から進路学習室までの廊下や掲示板の整備および進路学習室の改善により、恒常的な情報発信に向けての体制を整える。 	
評価	<ul style="list-style-type: none"> キャリア講演会、出張講義など進路学習の充実は認められるが、その体系化は完成途上である。 進路指導委員会を中心とした指導体系が構築されている。 栃高評価 満足度 生徒82% (78) 保護者94% (93) 		<ul style="list-style-type: none"> 模試分析は、一部の学年において十分に深めることができなかった。 進路情報の量的な充実は達成しているが、即時の伝達と、情報をいかに活用していくかという点に課題が残った。 栃高評価 満足度 生徒81% (76) 保護者93% (92) 	
学校関係者 評価	<ul style="list-style-type: none"> どの大学に合格させるかというだけでなく、その向こうにある学問・研究・仕事の世界を体験させるという、将来まで見通した進路指導の全体の方向性を高く評価したい。 		<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導をより一層充実させるとともに、一人ひとりの心に響くような指導をするという難しい段階に入ってきていると思うが、がんばって欲しい。 	
次年度への 課題	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を通した進路学習について、より積極的に発信する。 生徒が主体的に自己の進路を探していく方策を構築する。そのためには、他部と協力し、「総合的な学習の時間」や進路関係行事からのキャリア教育の展開の工夫が不可欠である。その上で生徒が心の底から「感じる」体験活動の構築を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> 全学年において、校内・校外模試について解答の分析を行い、採点講評などを生徒に配布するなどし、生徒の学習意欲の喚起を促す。 進路指導部内の各教科担当や学年担当のつながりを活用することにより、進路情報の伝達に努める。「進路便り」の発行も検討する。 	

重点目標	d 読書量向上への指導の実践 【図書館】	e 健康的な生活のための生活習慣の確立 【保健厚生】【生徒指導】		
重点課題	5 効果的な読書指導の実施	6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成		
現状	<ul style="list-style-type: none"> 貸し出し数は伸びてきているものの読書奨励が十分ではないため、効果的な読書指導がなお途上段階にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康的な生活習慣に関する指導計画を作成し当該教科、保健室中心に直接指導している。 学校カウンセラーと担任と教育相談係が中心となって、不登校生徒の対応に当たっている。 		
達成目標	貸し出し数目標4000冊	A	朝食を抜く生徒をゼロに近づける。	A
	談話会年間8回実施	B	ほぼ毎日運動を継続している生徒の割合80%を目指す。	A
			各学年における長期欠席生徒ゼロ。	B
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 時事問題、教科、講演会等の関連図書の展示コーナー設置 「としょあんない」定期発行 「図書館報」発行 学校祭参加 「図書館コーナー」(進路室わきと多目的ホール)開設 学校訪問 掲示板・放送などを使った広報活動 ホームページ更新 談話会の継続。読書会実施(新規) 		<ul style="list-style-type: none"> 食事、睡眠、運動等の指導内容を具体化する。 1年次の教科保健および保健室利用生徒等に健康的な生活習慣の重要性を指導し実践させる。 教育相談係・担任・養護教諭が中心となりスクールカウンセラーと十分な連携を図り、情報の共有、適切な対応に努める。 	
評価	<p>栃高評価質問 : 生徒69%(64)保護者77%(66) CASA 集計結果: 貸し出し数 4297冊(3097)、入館者数 10137人(8457)[2月28日現在・()内は去年同時期]</p> <ul style="list-style-type: none"> 栃高評価の「授業や進路に関する書籍の紹介」に関しては、生徒・保護者ともに「あまり思わない」「そう思わない」を合わせて30%前後ある。今後の継続的課題である。 貸し出し数など達成目標及び具体的取り組みに関しては、目標以上に達成・実現できた。ただ、談話会の実施5回だけが目標の8回に到達しなかった。 		<p>栃高評価 : 生徒43%(42)保護者73%(71) 栃高評価 : 生徒44%(43)保護者80%(69)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健厚生指導についての広報についてはさらに充実させる必要がある。 朝食欠食生徒数は各学年2%程度であるが、ゼロにまで指導を進めていくことが必要である。 週あたりの運動実践回数や運動実施時間は適当である。 	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> このところの様々な新しい取り組みの成果が顕著に見られる点、評価したい。 「書籍の紹介」については、授業との関連を強めるとより効果的だと思う。 		<ul style="list-style-type: none"> 通学区域が広く、地域や家庭が見えにくい条件下にあるので、家庭との連携を深めることに留意していただきたい。 	
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 時事問題、教科、記念講演会、出張講義などに関連する書籍コーナーをさらに充実したものとする。 年度末の貸し出し数の目標を5000冊とする。 多目的ホールの蔵書を増やすとともに、スポーツ関係図書コーナーなど、蔵書に特色を持たせる。 読書会を定着させる。 CASA集計時期を統一する。(毎年11月30日) 		<ul style="list-style-type: none"> 次年度も引き続き朝食欠食生徒ゼロ、運動の継続といった健康的な生活習慣の実践を具体的に指導したい。また、次年度もアンケートを実施し、データに基づいた分析を行う。 担任の面談や教育相談を通して、更なる不登校生徒の早期発見、早期対応を心がける。 担任・保護者・カウンセラーの関連、関係機関との連携を強化していくとともに、教育相談についての広報を強化する。 	

重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導 【特活】			
重点課題	7 充実した学校祭の企画と実施	8 充実した体験活動等の企画と実施		
現状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒実行委員会が主導して文化委員等生徒会組織を動かし、全員参加による学校祭を企画しているが、生徒の自主・自律性が十分に発揮されているとは言い難い。 文化的企画と娯楽的企画とのバランスが不十分である。 地域社会への事前のアピールが不十分である。 クラス・学年・学校全体の一体感を育てている。 	<ul style="list-style-type: none"> 県庁堀清掃ボランティア（1年全員） 移動教室（1・2年希望者）（東京宿泊研修、史跡・東北大見学） 生徒会リーダー研修会（生徒会新役員・各部活動部長） スキースノーボード教室（1・2年希望者） ボストン海外研修（2年希望者） 		
達成目標達成率	<ul style="list-style-type: none"> 入場者目標延べ2000人(雨天時1500人) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 移動教室参加目標人数（東京宿泊研修80名、史跡・東北大見学80名、スキースノーボード教室 80名） 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 校内広報紙の毎月発行と参加団体代表者会議の毎月実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校外研修・海外研修の紹介および参加募集 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 「文化講演会」を実現、入場者数 最大時200人と御聖蹟入場者目標の延べ200人の達成 	A		
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒実行委員会を定例化し生徒会係職員との連携を強化する。 第二生徒会室を整備、有効活用を指導し、機能強化を図る。 生徒実行委員会だけでなく、福祉国際理解委員会、図書委員会、進路係等の生徒会組織全体を機能させ、学校全体を活性化させる。 近隣高校の学校祭を見学するなど、他校との連携を深める。 学校HPを活用し、学校祭プログラムを事前告知する。 学校全体の一体感を育てるために、後夜祭企画は内容をスリム化し、全学年参加型企画を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 移動教室においては、グループ方式による卒業生との懇談会を日程に組み込み、その魅力を十分に事前告知する。 体験活動全般において、その意義を各クラスにおいて指導し、事前指導・研修の機会を設け、参加生徒がそれぞれ課題意識を明確にして当日に臨めるようにする。 福祉・国際理解分野の校外研修を精選・検討し、実現を図る。 生徒会執行部の他、美化委員会、福祉国際理解委員会等、関連する生徒会委員会を機能させる。 		
評価	<p>栃高評価：生徒79%(72)保護者92%(80) / 来場者数：2103名</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内広報紙・参加団体代表者会議は、三週間に一回のペースで発行・実施できた。 入場者「文化講演会」のべ580名（最大時230名）、「御聖蹟」のべ540名。「御聖蹟」の生徒によるガイドが好評であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京研修参加者80名（希望者100名超）、史跡東北大研修参加者130名、スキースノーボード教室参加者80名。いずれも募集定員上限を満たした。 第1回ボストン海外研修参加者22名。 上記研修・教室の参加者アンケートによる満足度は全て95%を超えた。 		
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 多世代の家族連れの見学者が多数見られるようになっている点、生徒の自己満足に終わらない学校祭ができている。一方、生徒が羽目を外すことを許容する部分ももう少しあっていいようにも思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の分掌との連携がとれて実施できている点が評価される。 ボストンという研修の素材にあふれる場所を研修地に選んだ着眼点を評価したい。長く継続できるようにお願いしたい。 		
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域回覧板等を活用し、地域社会へますますの浸透を図る。 HP更新がやや遅れ気味であったことを反省し、HPを通じた事前告知に努力する。 より文化的な発表内容が生徒から自発的に企画・実現されるよう、職員間の連携をよく図り組織的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京研修は夏休み平日2日間実施を生かしたプログラム開発を行う。 校外研修・海外研修については、本校生のニーズに合った企画内容を検討し、事前準備事前指導の充実を図る。 進路部キャリア教育係、渉外部同窓会係との連携を図る。 		

重点目標	g 規範意識と自主性の向上		【生徒指導】	
重点課題	9 社会生活におけるルールの遵守とマナーの向上		10 集団生活における規範意識の向上	
現状	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全係の指導の下、生徒会交通委員会が中心となり、交通ルールの遵守、マナー向上に努めている。 関係機関から送付される資料を基に、情報マナーの啓蒙に努めている。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導係、担任を中心に、生徒の規範意識及びモラルの向上に努めている。 	
達成目標 達成率	<ul style="list-style-type: none"> 自転車傘差し運転、並進、運転中のヘッドフォン使用ゼロ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 制服着用マナーの向上。(服装注意書発行枚数ゼロ) 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 自転車運転時の交差点等での一時停止遵守の徹底。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 自己管理の徹底。(金銭、物品の紛失ゼロ) 	A
	<ul style="list-style-type: none"> インターネット、携帯電話使用に関する被害及び加害の発生件数ゼロ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内への携帯電話持ち込み禁止。 	C
具体的な取 り組み	<ul style="list-style-type: none"> 交通委員会を中心とし、生徒の自発的啓発活動を促す。 全職員が協力して生徒の交通指導に努め、必要に応じて立哨指導を行う。 S H R等において、新聞記事や高校生の交通事故事例などを参考に事故に遭わない起こさない等の指導を日常的に行う。 交通講話、L H R等を通して生徒に生命尊重の意識を持たせるよう努める。 インターネット、携帯電話利用のトラブルに関する情報の提供に努める。 保護者に携帯電話のフィルタリングサービスの使用を強く促す。 		<ul style="list-style-type: none"> 全職員が共通理解を持ち、『その時、その場で注意』を心がけ服装指導を行う。 制服着用マナーの生徒に注意書を発行し、本人の自覚を深めさせるとともに保護者にも注意を喚起する。 貴重品等の管理を徹底させるとともに、様々な場面を通して、他者の権利を尊重する精神の醸成に努める。 携帯電話の校内持ち込み、使用については全職員が共通理解を持って指導に当たる。 	
評価	<p>栃高評価 : 生徒75%(68)保護者89%(87) 栃高評価 : 生徒56%(61)保護者89%(87)</p> <ul style="list-style-type: none"> 街頭指導実施後、自転車のヘッドホン着用者が著しく減った。 交通無事故ゼロ連続日数140日。 登下校中の交通マナーについての近隣住民からの苦情が数件寄せられた。 交差点の一時停止無視は改善が見られたがまだ不十分である。 ネット関係のトラブルや事件は一件もなく、マナー向上や危険回避の呼びかけの効果があったと思われる。 		<p>栃高評価 : 生徒73%(72)保護者94%(96)</p> <ul style="list-style-type: none"> 著しく制服の着用が乱れている生徒は減ってきたと思われるが、学生服の第一ボタンを解放するなどの部分的な着崩しが目立つ。 自転車や金銭盗難については報告された例はなく、所持品の管理についてはある程度徹底されてきたようである。 携帯電話については、授業中に着信音を鳴らし、指導を受けた生徒が二桁に昇った。 	
学校関係者 評価	<ul style="list-style-type: none"> 交通被害に遭わないというだけでなく、高校生は加害者としての責任も問われるという点を強調したマナー指導が必要である。 		<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話に関しては引き続きマナー指導をしっかりとお願いしたい。 	
次年度への 課題	<ul style="list-style-type: none"> 事故に遭うまで交通安全を自分の問題として考えられない生徒がほとんどであるので、本校生徒に起こった各事故の事例を検証し、何が問題であったかを明確にして生徒に周知する。 		<ul style="list-style-type: none"> 制服着用の乱れに関しては、生徒の意識を高めるため、指導する職員の共通理解や指導の一貫性を高める。 携帯電話に関しては、持ち込んでしまった場合の指導の徹底を図る。 	

重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み 【保健厚生】	i 広報活動の充実 【渉外】【教務】		
重点課題	1 1 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活（学習）環境向上への取り組み。	1 2 家庭および地域社会への積極的な情報の発信		
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミと資源の分別回収は概ねきちんとしてきているが、校舎外において一部不徹底がみられる。 ・生徒全員が分担区および月毎等目標設定を行い自主的に清掃活動を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「PTAだより」の年2回、「校報」の年4回の発行。 ・5月のPTA総会で、生活指導、進路指導の取り組みや現状についての情報の提供。 ・PTA評議員会の年4回開催。進路関係を中心に適宜情報を提供。 ・中学校訪問用持参資料の作成。 ・ホームページの定期的な更新。 		
達成目標 達成率	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量化を推進する。（可燃ゴミの量を年間1200kg以内とする） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「PTAだより」の内容の充実 	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル運動（ペットボトルキャップ）の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「校報」の内容の充実 	B
			<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの内容の充実 	A
具体的な取 り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員会による清掃実施状況・用具点検の実施。 ・環境美化委員会を中心とした資源ごみのリサイクル運動を推進する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「PTAだより」に、保護者の意見・感想をさらに積極的に取り上げ、一層の情報の双方向化を図る。 ・「PTA評議員会」において、各分掌との連携を強化し、教育活動に関する情報の一層の多角化を図る。 ・「校報」6月号に、学校評価の結果を載せるとともに情報発信源としての内容の改善を図る。 ・ホームページの毎月更新作業を定着させるとともに、内容の改善を図る。 ・公開授業における中学校との連携に資するような学習指導・生徒指導関係の情報の内容および提供方法を検討する。 	
評価	<p>栃高評価：生徒67%(60)保護者73%(97)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員会によるごみ分別内容、ゴミ捨て場等のプリント作成、配布による減量化、リサイクルの啓発活動ができた。 ・可燃ゴミの量を年間（2月まで）13,248kgの統計である。 ・ゴミ減量化への取り組みでは、季節ゴミ（落ち葉等）の増加により、減量はできなかった。 		<p>栃高評価：生徒62%(61)保護者88%(86)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「PTAだより」79号に支部会での質問、要望などを掲載。 ・「PTA評議員会」では、進路情報など適宜提供できた。 ・「校報」学校評価のまとめを掲載できたが内容の刷新はなかった。 ・ホームページの定期（毎月）更新作業が定着でき、部活動や委員会活動など、生徒の活躍・活動が広報できた。 ・中学校訪問用資料は作成したが、公開授業における中学校との連携に資するような資料の作成ができなかった。 	
学校関係者 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に校内を歩いてみると、清掃等の校内の美化はかなり徹底されているように感じる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「PTAだより」は保護者中心の編集を考えるとどうか。 ・「校報」は先生の顔が見えるような記事を期待したい。 ・ホームページは重要なツールである。一層の充実を期待したい。 	
次年度への 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な数値目標を設定し、より一層の減量化、リサイクルを実践する。 ・ゴミの「計量」を徹底をしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「校報」「PTAだより」の編集方針を検討しさらなる改善を図る。 ・ホームページ等を利用した広報を一層充実させ、本校の教育活動への保護者等の理解をより深めていただけるように工夫する。 	